



国際化推進室ニュースレター No12



1. グローバル学生交流が開催されました。

6月27日(土)から7月18日(土)までの3週間、本学にてグローバル学生交流が開催されました。曲阜師範大学からの研修生10名、慶南大学校からの研修生10名、教養科目「国際交流」履修生37名(国際文化学科12名、社会福祉学科4名、看護学科17名、栄養学科4名)、「日本語講義」担当学生57名(初級44名、中級13名)、国際文化学部専門科目「地域実習」履修生2名の、計116名が参加してのプログラムとなりました。ご指導等にあたってくださった教職員や地域の方々に御礼申し上げます。

以下、スピーチコンテストの様子をご紹介します。

<初級>

番号	名前	テーマ	タイトル	大学名
1	孫 一航	日本での思い出	また山口に	曲阜
2	金 讚頌		3週間の思い出	慶南
3	劉 会洋		美しい追憶	曲阜
4	朴 哉垠	将来の夢	社会福祉士になりたいです	慶南
5	金 娥瓏		私の夢について	慶南
6	張 明	文化の違い	小さな箸、大きな文化	曲阜
7	侯 晓琳	自分の国について	美しい泰山	曲阜
8	韓 浩成		きれいな故郷	曲阜
9	王 雲鵬		私の青島、私の夢	曲阜
10	魏 学		中国のお正月の食べ物	曲阜

<中級>

番号	名前	テーマ	タイトル	大学名
1	李 珍珂	日本での思い出	夏の思い出	慶南
2	魏 宏洋		日本での経験	曲阜
3	金 材恩		心と言葉のチカラ	慶南
4	金 允姫	将来の夢	先生への一歩	慶南
5	魏 朋		変わりつつある夢	曲阜
6	金 洙津		警察になりたい!	慶南
7	步 亦飛		ライター・ドリーム	曲阜
8	姜 多炫	文化の違い	日本語の先生	慶南
9	白 美軟		目からうろこが出た!	慶南
10	李 尙潤		韓国と日本	慶南

(スピーチは漢字表記等、一部修正しています。)

金 讚頌(慶南大学校)「3週間の思い出」

みなさんおはようございます。初級クラスのキムチャンソンと申します。今からぼくの山口での思い出についてお話しします。

一年待って、山口県立大学に来ました。わくわくしてここに来て、歓迎式をしてからもっと「来て良かった」と思いました。帰る時までの全ての予定が楽しそうな感じがしました。初めて山口に来た私たちのために、日曜日にもかかわらず、山口の大きな店や瑠璃光寺など、学生たちと一緒に回りながら話ぐできたのは良かったです。

今までで心に残ったことが3つあります。1番目は一週目にあった秋芳洞の約1kmくらいあるコースを歩きながら見た美しい自然の造形物と大寧寺です。なかなか体験できない薬石や昔の食事法など、大変でしたが、心が癒される時間でした。2番目は二週目にあった色々な日程の中で、徳地交流センターで地域住民の方と一緒に食べ物を作って食べたり、和紙模様作りをしたことです。徳地少年自然の家で中国留学生と県立大学生と一緒にした野外炊飯のための薪割りなど、一緒にたくさん話をしながら楽しい時間を過ごせたことが良かったです。3番目は社会福祉学部の学生たちと一緒にしたスポーツ交流と、野田学園高等学校を訪問したことです。高校生と話をし、授業参観もして箏曲を体験できて本当に楽しかったです。

三週間でしたが、私は幸せでした。韓国に帰って6ヶ月勉強してから、来年またこの山口県立大学で交換留学生としてみなさんと会いたいです。



(地域の人々から和紙づくりを学ぶ)

劉 会洋(曲阜師範大学)「美しい追憶」

三週間前、私は興奮しながら日本に来ました。和室とか、日本料理とか、左側通行とか、もうだんだん慣れてきました。しかし、時間の経つのが速くて、そろそろ帰国しなければなりません。

このたくさんの体験の中で、私が驚いたのは日本のサービスです。ずっと笑顔で、面倒なことではないことです。日本にきた初めての日、海峡ゆめタワーにいきました。そこの従業員は私たちのバスが来る前から立っていて、帰る時は私たちがバスに乗るまで送ってくれました。バスはだんだん走りだし、私が振り返って見ると、その従業員はずっとそこに立って手を振っていました。日本のサービスはやはり世界一だということをしみじみ感じました。

この根本的な原因は「和」文化にあると思います。ですから、日本の文化によりいっそう興味を持つようになりました。山口県立大学が私たちにいろいろな授業を用意してくれていて、それを通じて、日本人の美意識をよく知ることができました。私が自分で生け花を作って、A館のホールで先生と学生の前に展示してもらったことは、まるで夢のようでした。茶道の授業からは、日本の「礼」を教えてくださいました。それは心と心のふれあいを大事にしている深い茶道文化です。それから、日本の踊りを踊ったり、着物を着たり、和紙を作ったりして、多くの知識を勉強しました。そして、文化だけではなくて、マツダ工場もいきました。日本の先進の技術を見て、本当にびっくりしました。

この三週間でいろいろ勉強になりました。みなさん、お世話になりました。ありがとうございました。



(看護学部生との交流)

朴 哉垠(慶南大学校)「社会福祉士になりたいです」

私の夢は、社会福祉に関わる仕事をする事です。社会福祉といっても種類がたくさんありますが、私に関心をもっている分野は青少年の社会福祉なので、もっと青少年と接することができるような仕事を目標に考えています。今、私は養護施設で子どもたち

に勉強を教えるボランティアをしています。勉強を教えている児童の中には、文化の違う家庭の子どもが3分の1ぐらいいます。これから国際化が進むにしたがって、文化が違う家庭の子どもの人数もだんだん増えていくと思います。そのため、その子たちの文化と気持ちを理解できる社会福祉の役割が重要になってくると思います。

この短期留学を通して、韓国と日本の家庭の背景について直接体験できたので、よかったと思います。他国の福祉と韓国の福祉を比べることは、自分自身の社会福祉に対する心構えや行動を発展でき、ステップアップの一步にすることができると思っています。7月14日にあった社会福祉学科の学生との交流は、とてもいい勉強になりました。視覚障害者や足が不自由な身体障害者などの立場を自分自身で体験しながら、普通では分からない人々の立場や感情を感じることができました。

この経験を生かして、立派な社会福祉士になれるよう、もっとがんばって前進していこうと思います。



(アイスマスクをしての玉入れ競技の体験)

李 珍珂(慶南大学校)「夏の思い出」

日本語の勉強を始めてもう六年がたちましたが、じっさいにはあまり使うことがないので、私の日本語の実力がどのくらいか分かりませんでした。私が言ってる言葉が通じるかどうか、いつも気になっていました。今年の夏、このプログラムに合格したことを聞いてから、日本語に対する不安と同時に、どんなに多い人々と会えるのか、また、知り合いになれるかという期待感を持って、「早く6月が来るといいな」と待っていました。まず、最初に山口に到着した時のイメージは、私の地元とすごく似ているところが多いということでした。

都市の周辺が山であることや温泉など、すべてが慣れている環境だから、楽に3週間を過せるだろうと安心しました。長期留学ではなくても大学に通うチャンスがあることを考えたことがなかったので、日本での3週間という期間が毎日毎日新

しい日々でした。

日本に来て初めてバレーボールをして、生花もして、茶道も体験しました。日本の学生のように学校に通って、学食で食べて、友だちと話をしたり、一緒にショッピングもしました。また夕食を食べた後にまわりの公園を散歩して、日常生活の余裕を感じることができ、そんなところが一番よかったと思います。2009年の夏を過ぎた山口を忘れません。日本にいる間、良い思い出をいただいて本当にありがとうございました。



(野田学園高校訪問)

魏 宏洋(曲阜師範大学)「日本での経験」

みなさん、こんにちは。日本に行くということは、5年前には、まるで高嶺の花のように、想像もできない話でした。しかし、今私はその花を取って日本にいます。

日本にいる20日間の中で、私にとって一番印象深いのは、人と人の付き合いの中の微妙な変化です。中国語を使わず、日本語だけで交流したのは今回初めてです。最初はまだよく知らなかったのですが、あいさつはするが、話が長く続けられなかったです。しかし、時間が経つにつれて、だんだんお互いに理解し合い、助け合いながら、仲良くなりました。たった20日間でしたが、時間というのはいすごいものですね。人と人を知らないうちにつなげるものもあり、人と人の壁をなくせるものでもあります。まるで、今の私たちのように、中・日・韓の友達の間、まるで水のように、切りたくても切れない絆ができています。このような絆が一つ一つつながって、暖かい世界をつくるのではないのでしょうか。科学技術が発展している今日、人と人のつながりがだんだんうすくなっている今こそ、今回のグローバル学生交流のような活動は必要なのではないでしょうか。私はそう思います。みなさん、私たち一緒に仲間を増やして、もっと美しい大家族を作りましょう。



(総おどりの練習)

金 沫津(慶南大学校)「警察になりたい！」

私の夢は警察になることです。今大学校で警察になるための勉強をしています。韓国では一年に2回の3月と7月に、1回ずつ警察試験があります。実は来週の土曜日に試験がありますが、この研修のために勉強をちょっと封印しました。日本と中国の友だちがいっぱいできて、今は試験のことを忘れてもいいんだと思います。

警察試験の科目は英語と、2つの法律科目と警察学と捜査とかがあります。外国語とかコンピューターとか武道資格があれば、5点まで加算点をもらえます。

学校の授業では、他の国の警察についても勉強します。日本について勉強した中でいちばん印象に残っているのは、日本人たちは事件を解決するより、事件が起こらないようにするということでした。実際日本に来て生活してみたら、本当にそうだと思います。ちょっとぶつかっても「すみません」というとか笑顔で他の人を迎えるのを見て、けんかとか事件が起こらなそうだと思います。

もともと私は警察の仕事の中で、外国の犯罪に関係ある仕事をやりたいと思っていました。三週間ここで研修をしてみて、その気持ちをもっと大きくなりました。日本語をもっと勉強して、日本と韓国の犯罪解決に役に立てることができたらいいなと思います。もし私がここ山口で仕事をしているのをみたら、よろしくお願ひします。警察として、いろいろな面でみなさんを助けます。そういう風に、また会いたいと思います。三週間本当に楽しかったです。ありがとうございました。



(日本語の授業)



(華道の授業)

姜 多炫(慶南大学校)「日本語の先生」

高校の時からずっと日本語を勉強してきました。初めて日本語を勉強した時、言葉のならびかたが一緒なので勉強しやすいかもしれないと思いましたが、どんどんむずかしくなって大変でした。でも、一つずつやればやるほど面白くなりました。ふつう勉強はむずかしいし、たいくつだと思んですが、初めて「勉強の楽しみ」ということを感じました。分からないことを教えてもらったりすると快意を覚えました。それで私が感じたことを他の人にも味わってほしいと思って、将来は日本語の先生になりたいと思っています。私は自分自身が好きなことをやるのが一番重要だと思って、この夢を高校2年生からずっと目指してきたんです。まだ大学2年生なんですけど、もっとしっかりしたいです。

まず先生になるための試験がきびしいので、日本語の勉強と学生に対する教育の勉強をいっしょけんめいやりたいと思っています。私は学生に対して、親しい先生になりたいと思っています。それから、他の人にただ語学を教えることだけではなくて、日本の礼儀や日本の生活文化を紹介して、韓国と比べながら面白く教えたいと思っています。今学校には、語学しか教えていないきびしい先生たちがたくさんいると思います。でも、体験してみたほうが、良い勉強になると思います。もっと日本語が分かるようになるし、よく覚えられるようになるかもしれません。

語学は、文化が分からなければ理解できない部分もたくさんあると思います。私にとってこの3週間は、またとない良い経験になりました。本当に役に立ちました。本当にお世話になりました。山口に来て、夢に向けてもっとやる気が出ました。韓国へ帰ったら、この経験を元にして、がんばります。今後も、自分自身をしっかり持って、夢に向かって一歩ずつ進みたいと思います。



(着物の着付け)

李 尚潤(慶南大学校)「韓国と日本」

ぼくは、これから韓国と日本両国の文化の違いについて話したいと思います。みなさんの中で韓国や他の外国に行ったことがある人もいるかもしれないですが、きっと外国に行くことと困ることに出会うと思います。みなさんは、そんな時どうしますか。

ぼくの場合は、日本の文化をよく知らなくて困ったことが時々ありました。食べ物や数の違いなど、さらに車の運転まで、そんな細かい所さえ違いがあるのを見つけました。その度にぼくはとなりの国なのに少し遠く感じました。われわれはお互いの深いところまでは分からないです。

国の文化というものは、人類が生きていながら少しずつその国にあてはまるように変わり、少しずつ固っていくのだと思います。ぼくも最初、その文化という壁にぶつかりました。でもぼくが一番話したいこと、ぼくが日本に住みながら感じたのは、両国の歴史関係や対外関係を越えて、きっと両国はその壁を乗り越えることができるということです。

この3週間、山口県立大学でのいろいろな交流を通して、文化の壁はあまり高くないのだと思いました。韓国と日本は、今まで近いけど遠くの国でした。でもこれからは、他のどんな国より近くて仲がいい国になれると思っています。これはぼくだけの考えではないと信じています。



(お別れ会)

2. 留学生の地域派遣を始めました

昨年の小中学校 15 校への留学生派遣に続き、今年度は県内 5 ヶ所に留学生を派遣し、1 泊 2 日の地域交流を通して相互交流型の国際理解講座を行います。まず第 1 回目として、7 月 19 日(日)、20 日(月・祝)の 2 日間にわたり、周防大島で留学生と地元の方々との交流会を行いました。

この交流会は、会場となった「八幡生涯学習のむら」のスタッフの皆さんの多大なるご協力により実現したもので、2 日間の参加者は、延べ 72 名、山口大学から 2 名の交換留学生も参加して行われました。(NPO 法人) 周防大島自然体感クラブ事務局の方々に御礼申し上げます。

1 日目の交流会では、周防大島から明治時代に多くのハワイへの移民を送り出したこと、戦艦「陸奥」が昭和 18 年に周防大島の沖合で謎の爆発を起こして沈没したこと等、地元に関わる歴史や文化を学ばせていただきました。また、夕食では、昔ながらの竈(かまど)での炊飯や煮炊きなどの伝統的な方法による日本の食文化を教えていただき、みんなで実践しました。

留学生だけでなく、参加者のほぼ全員が経験したことのない調理道具に四苦八苦しましたが、素材の味を活かした食事に一同大満足でした。

2 日目の交流会では、カナダ、中国の留学生が講師となり、『国際料理教室』を開催しました。カナダの料理は、「メープルとマスタードのチキンの照り焼き」と「マッシュポテト」、中国の料理は、「中華サラダ」、「ナスの和え物」、「緑豆スープ」。それらのメニューを参加者の皆さんと作りました。参加者の皆さんは用意したレシピを持ち帰り、自宅でも作ってみたいとの声をたくさん聞くことができました。

2 日間にわたる宿泊交流会で、地域の人々とゆっくりした時間をもち、一人一人の顔の見える国際交流を実現することができました。地域の文化にじっくりと触れることにより、留学生には貴重な体験となりました。



(国際料理教室の様子)



(地域の皆さんと楽しく試食会)

3. 海外語学・文化研修の出発式が行われました

7 月 29 日(水)、海外学術交流協定大学への「海外語学・文化研修」、「交換留学」、「日本語ティーチングアシスタント」の出発式が本館大会議室で行われました。

江里健輔学長より、「海外語学・文化研修」の中国研修派遣学生 8 名、韓国研修派遣学生 12 名、カナダ研修派遣学生 10 名、「交換留学」派遣学生 4 名、「日本語ティーチングアシスタント」派遣学生 1 名に対し、『学生時代に他の国の文化を直に感じることは大変貴重な体験で、素晴らしいことです。本学の派遣学生として選ばれたチャンスを活かして、勉強だけでなく国際交流にも努めてきて下さい』という激励の言葉とともに派遣書が手渡されました。

派遣書を受け取った学生たちからは、『語学だけでなく、派遣先の文化を十分に習得するとともに、現地の方々へも日本文化を深く知っていただけるよう頑張ってきます』(語学・文化研修派遣学生)、『私たちのために、このような出発式を設けてくださり、ありがとうございます。多くの希望者の中から選考され、貴重な経験を積む機会を与えて下さったことに感謝します』(交換留学派遣学生)といったコメントとともに、それぞれのプログラムを充実したものにする決意表明がなされました。

なお出発式には、カナダ研修の引率者の三島正英副学長、伊嶋正之副理事長、中国研修引率者の張玉玲国際文化学部講師、韓国研修引率者の松田和也学生支援グループリーダーも同席されました。



(出発式の様子)

4. 2009 年度前期で帰国する留学生

留学生の報告をホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。

(受入 8 月～9 月に帰国予定)

大学名	氏名	性別
ビショップス大学	Dominique Daneau-Pelletier	女
	Evelyne Gilbert	女
	Marc Andre Mcperson	男
	Elliott Verreault	男
ナバラ州立大学	LJUBIMOV Roman	男
曲阜師範大学	申 福順	女

(派遣 全員帰国しました)

大学名	氏名	性別
ビショップス大学	福富 菜月	女
センター大学	潮田 紗希子	女
	南 裕子	女
	梅田 詳子	女
ナバラ州立大学	田中 沙織	女
	伊敷 江莉果	女
	原 このみ	女
	茶谷 玲奈	女
ラップランド大学	宮田 弓子	女
	鈴木 沙依	女
	菅原 匠	男

また、世界一周をした小川美濃里さん（看護学部 4 年）の報告、デンマークに自主企画によるスタディーツアーを行った乾翔純さん、清水あかねさん、空美有紀さん、高橋美里さん（社会福祉学部 3 年）の報告も、ホームページで紹介しています。

5. 留学生のための学生チューターが活躍中です

食堂とデッキで、留学生と向き合って勉強をしている日本人学生を見かけたことはありませんか？

学生活動支援センターの補助を受け、毎週 3 回のペースで留学生に日本語を教えたり生活支援を行ったりする学生チューター制度を始めて二年目になります。毎回の活動は日誌に記録してもらい、一ヶ月に一度活動内容の確認が行われるほか、英語圏から

の留学生を担当するグループ、東アジア圏からの留学生を担当するグループに分かれて、学生チューター間で情報共有のミーティングを行っています。

学生チューターを希望する学生は増えてきており、現在 2 倍の倍率となっています。これまでは交換留学生のみが対象となっていますが、今後は学部に入學してくる長期留学生にも支援を広げる必要があるかもしれません。



(日本語の勉強中)



(ケベックの日にみんなで BBQ パーティ)

6. お知らせ

◆ 8 月 9 日（日）・10 日（月）に、阿東町「あんずの里」に留学生 5 名を派遣します。夏祭りの手伝い、施設職員との交流会、国際料理教室などを開催し、日本人学生 2 名も手伝います。

◆ 8 月 11 日（火）に、山口大学で「留学生就職支援フェスタ・イン山口」が開催されます。本学から留学生 11 名が参加し、県内優良企業との就職面接なども行われます。

◆ 10 月 1 日（木）の後期オリエンテーションの日に、「海外語学・文化研修報告会、交換留学報告会」が開催されます。12:50～14:20 まで、A32 教室です。同時に、来年度に向けた英語圏姉妹大学への交換留学（派遣）の募集が開始されます。

山口県立大学国際化推進室 桜翔館 2 階
Tel(内線):083-928-3413 (3413)
email:kokusaika@yamaguchi-pu.ac.jp